令和８年度研究推進計画

１　研究主題

主体的に学び　ともに学びを楽しむ児童の育成

～わかった！できた！が実感できる授業作りを通して～

２　研究主題設定の理由

本校では昨年度，研究主題を「自ら学び　互いを尊重し　学び続ける児童の育成」とし，個別最適な学びとふりかえりの連続を軸とした授業改善に取り組んできた。特に支援の必要な児童へのアセスメントに基づいた手立てや支援策を講じ，すべての児童が学びに向かうことができるよう研究を進めてきた。

児童アンケート「学校の授業がよく分かる」の肯定的な回答は 91%,「課題に向かって自分で考え自分で取り組んでいる」の肯定的な回答は 92%であった。アンケート結果の肯定的評価が全体として高いことが分かった。これは，単元の初めに児童に学習計画を提示し，付けたい力と単元構成を児童と共有すること，個別最適な学びができる支援を準備することで児童が見通しをもち，主体的に学習に取り組むようになったと考えられる。また，振り返りの積み重ねと教師の適切な評価により，学力の支えになる学びに向かう意欲の育成につながったと考えられる。廿日市市標準学力調査においては，目標としていた「ステップ１の児童を８％以下にする」が，昨年度と比較して 4.3%減少して 7.7%となり，達成することができた。このように，学力が上がったことや学びに向かう主体性が伸びてきていることが分かった。

２月に行った校内研修では，日々の授業での先生方の困り感や児童の実態・課題を話し合った。学習規律の定着が不十分，集中力が続かない，語彙力・読解力が弱いなど，多様な困り感が共有されたが，共通していたのは,「基礎基本の定着」が必要ということであった。昨年度の廿日市市標準学力調査の結果では，国語と算数の「基礎」項目において，半分の学年が全国平均を下回った。また，国語の「読むこと」の項目で６学年中５つの学年が全国平均を下回った。言葉を知り，文章を正しく読み解く力があって初めて児童は，自ら考え，表現することができる。すべての児童を誰一人取り残さず，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決する資質や能力を育成していくために，昨年度のアプローチを継続しつつ，組織的に取り組み，基礎基本の徹底を土台とした「生きる力」の育成が不可欠である。また，主体的に学習に取り組み，相手を尊重し，友達,先生，地域とともに学び，課題を解決し成長していく児童の育成に取り組んでいく。

このような理由から，今年度の研究主題を「主体的に学び，ともに学びを楽しむ児童の育成」とした。また,副題を「わかった！できた！が実感できる授業作りを通して」とし，児童が「わかった！」「できた！」と実感できる授業を目指して取組を実践していく。

課題である基礎基本の学力の定着への取り組みとして,「環境整備」と「授業づくり」の２つの項目に整理した。２つの項目を「ステップ０(ゼロ)」と名付け，チェックシートを作成し，全学級，全職員で意識して取り組んでいく。また，授業改善プロジェクトを実施し，学年ごとに児童の実態に合った決まった学習を継続的に行うルーティーンを設定し，児童が安心して学びに向かえるよう授業改善を図る。もう一つの課題である主体的に学ぶ態度の育成の取り組みとして,「探究」と「協働」をキーワードとし，主体的に学び，ともに学びを楽しむ児童の育成と児童の生きる力の育成を図る。研究の取組が宮内小学校に通う全ての児童の育成につながっていることを忘れてはいけない。

研究を進めるにあたって「すべての子ども達が安心して学ぶことができる学校を作ること」を職員同士が対話を通して考え，実践するきっかけ作りや交流の場のひとつになるように研修を位置づけ，研究主題を基にして，学年の子供たちの実態を把握し，取り組みを決め，分析し，新たに問題を見出したり，新たな課題に取り組んだりすることで目指す児童の育成を目指していく。基礎基本の力をつけるルーティーンと授業改善の過程

を探究的に進めていく。

教職員自らが主体性をもち，日常的に双方向でつながることを研究の場で作ることができれば，心理的安全性が生まれる。木岡一明編（2004)『学校の研修ガイドブックＮｏ　４「学校組織マネジメント」研修』教育開発研究所の文献には，「同僚性は，柔軟なコミュニケーション関係を用いることで組織のなかのさまざまな問題を解決する力をもっている」と記してある。教職員自身が幸せであり，互いを支え合う関係性の中でこそ，児童の豊かな学びは実現する。「わかった！できた！」が実感できる授業作りを通して，主体的に学び，ともに学びを楽しむ児童の育成を図る。

３　目指す児童の姿

探究【主体的に学ぶ】	協働【ともに学びを楽しむ】
・自ら課題を見つけ，解決に向かって意欲的に取り組む姿。 ・自分に合った学び方，教材，学習時間などを選択し，やってみようとする姿。 ・学習を振り返り，自分の学習を調整し，粘り強く取り組む姿。	・友達の考えから自分の考えを深めたり広げたりする姿。 ・いろいろな考えをもつ友達と対話し，相互に理解しようとする姿。 ・分からないことが安心して言える姿。

４　研究仮説

児童の実態を適切に把握し，主体的に学習できる取組と協働の場を設定することで，主体的に学び，友達とともに学び合う児童の育成ができるだろう。

５　研究の取組

（１）　理論研修

〇実態把握アセスメント・個の支援

〇学びの環境作り

（２）学びの環境作り

〇学びを支える環境作り・・・教室環境等

（３）児童の実態把握

〇学年で児童の強みと弱みを把握し，学年で共有する。

〇学年で実態を把握・共有し，取組を決め，継続的に実践することで児童の基礎基本の力を付ける。

（４）基礎基本の定着のための取組

〇ルーティーンの取組

〇授業研究（授業改善）

※１年間かけて授業改善に取り組み，成果と課題をまとめ，３学期にプレゼンを行う。自分たちの取組を振り返ることによって，授業改善を図る。ほかの学年や個人の取組を知ることによって，考えを広げ，深める。

５月　ルーティーン取組スタート	６月　授業研究（1 回目）
１１月　授業研究（2 回目）	２月　プレゼン発表（１年間の取組の成果と課題）

（５）授業づくりの視点

・授業を作る時に以下の視点を組み込む。

探究【主体的に学ぶ】	協働【ともに学びを楽しむ】
１　自己選択・自己決定の場を入れる。	１　協働の場を入れる。 ○効果的な場面を考え，対話を通して，思考を深めるように仕組む。
２　授業や単元の最後には必ず振り返りを行う。 （・ノート　・ワークシート　・タブレット） ○児童が主体的な学びが高まったと思えるように意識して，単元全体や毎時間の構成や適切な振り返りの場を考える。	２　安心して学習に取り組ませる。 （・見通し　・ルール作り）
振り返りを書かせる時の視点 **※「３目指す児童の姿」が見えるような聞き方をする。** **◎自ら課題を見つけ，解決に向かって意欲的に取り組むもうとしましたか。どんな時にそうしましたか。** **◎どうしてそうなるのだろうと考え，答えを見つけるために友達に聞いたり，あきらめずに取り組んだりしたことはありますか。** **◎新しい発見はありましたか。それは何ですか。なぜ，発見ができましたか。** **◎次に学習してみたいことは何ですか。** **◎粘り強く取り組むことができましたか。それは，どんなときですか。なぜ，粘り強く取り組むことができましたか。など**	
３　学習計画表を提示する。 ○つけたい力と単元の流れを児童と共有する。	
４　自分に合った学び方，教材，学習活動などを選択できるように工夫する。	
５　児童がやってみたいと思える単元構成を考える。	

（６）１人１取組発表

○自分の得意なことや分野，良かった教材などの取組を交流する。

○実施した取組について個人でまとめ発表することで主体的に研究に関わり，全体に広げることで研究を全体で深めていくものとする。

○授業研究を担当した先生は１人１取組のプレゼンはしなくてもよい。

（７）対話を通した人間関係作り

○ワークショップを取り入れ，教師同士が相互に話しやすい人間関係作りを行う。

○心地よい関係作りの体験を通して，学級経営に還元する。

６　検証

主体的で探究的な学習の学び手の育成の視点を取り入れ，協働の場を設定することで，児童が，主体的に学習に取組み，学習がわかる，できると実感しているかを検証する。また，基礎基本の力がついているか，テスト等で検証する。

○学校評価アンケート「学校の授業がわかる」（肯定的評価９０％以上）

○主体的に学習に取り組んでいる児童アンケート「課題に向かって自分で考え自分で取り組んでいる」（肯定的評価９０％以上）を２学期の授業研究後にとり，手立てが有効だったかを検証する。

○学年でのルーティーン化計画の取組の検証を行う。カラーテスト等で基礎基本の定着を検証する。
※「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」や「読む力」「書く力」「数と計算」など，焦点を絞って取り組み内容を決めて取組み、カラーテスト等で検証する。
○当該学年の前年度と比較して，廿日市市標準学力調査において段階（ステップ）での児童の変容を見る。ステップ１，２，５の児童の増減を見る。

7　研修計画

日　時	内　容	備　考
4月　3日（金）	全体研修 ・今年度の研究について　共通理解を深める。	
4月１6日（木）	全体研修 ・学びの環境について	
5月　7日（木）１５：４５～	全体研修 ・研究推進計画 ・昨年度末の当該学年の廿日市市学力定着状況調査の分析 ※５月第３週頃，研究に関わるアンケートをとる。	
5月１4日（木）１５：００～	全体研修 ・アセスメントと支援　　・ルーティーン化計画 学年での研究授業計画と準備❶	
5月２8日（木）１５：３０～	理論研修　「主体性」と「協働」	市教委
6月　4日（木）１５：４５～	学年での研究授業計画と準備❷	
6月２２日（月）	学年内授業研究（学年で見に行く。）	
7月　2日（木）	・１学期の研究授業の整理・分析・改善１回目	
7月　9日（木）	全体理論研修　「アセスメント」「個の支援」	山田先生
8月２7日（木）	研修　「全国学力学習状況調査分析」	
9月１0日（木）	理論研修　「主体性」と「協働」	市教委
１0月8日（木）	授業作り研修　授業研究準備と準備❸	市教委
１0月２２日（木）	授業研究準備と準備❹	
１１月１0日（火）	授業研究　１年　３年　５年（ブロックで見に行く。）	
１１月１１日（水）	授業研究　２年　４年　６年（ブロックで見に行く。）	
１２月１7日（木）	全体研修 ・２学期の研究授業の整理・分析・改善２回目 ・学校評価アンケート分析 ※２学期授業研究後に研究に関わるアンケートをとる。	
1月１4日（木）	学年プレゼンの準備　作成	
1月２１日（木）	学年プレゼンの準備	
2月１１日（木）	全体研修 ・廿日市市標準学力調査の分析	
2月１8日（木）	学力定着状況調査の結果を踏まえて，学年プレゼンの最終準備・確認	
2月２5日（木）	全体研修 ・１人１取組と学年の成果，課題プレゼン（アンケート結果や学力テストの結果を踏まえて）	

別紙

探究【主体的に学ぶ】	協働【ともに学びを楽しむ】
自ら課題を見つけ，解決に向かって意欲的に取り組む姿 予想し，確かめようとする姿 改善策を考える姿 どうしてそうなるのだろうと考え続ける姿 解決のために必要な情報を探している姿 前に習ったことをつなげて考える姿 比べて考える姿 自分の考えを分かりやすくノートにまとめる姿 与えられている，やらされているのではなく，自分から選択し，やってみようとする姿 新たな課題や，これからやってみたいことを自ら見つける姿 自分の意志や考えをもって取り組む姿 結果がうまくいかなかった時はどうしてそうなったか考え，次の考えや改善策を考え，実践してみる姿 人のせいにせず，自分を振り返り，今後の取組を決めて行う姿 粘り強く取り組む姿　など	友達の考えを聞く姿 友達の考えを大切にし，友達とともに解決していこうとする姿 わからない時に自分から聞く姿 教える姿 どうしたら伝わるか考え，試行錯誤している 相槌や返事をして関わろうとする姿 友達の考えから自分の考えを広げる姿 意見交換やペア学習などを通して問題を解決する姿 いろいろな考えをもつ友達と対話し，相互に理解しようとする姿 協力することでより深い理解や新しい考えを生み出す姿 聞き手に分かるような表現を考え，工夫する姿 考えを書いたり発表したりして，友達に伝えるなど表現する姿 など

◎「対話」のメリット
・信頼関係が強まる・・・お互いを尊重し，理解することで，信頼関係とチームワークが高まり生産性が向上する。
・問題解決能力の向上・・・異なる視点をもつ人同士が対話することで，より多角的なアプローチが可能になり，問題解決能力が向上する。
・コミュニケーションスキルの向上・・・対話を通して，自分の考えを整理し，言葉にすることで，相手に明確に伝えることができるようになる。

◎「対話」の定義・・・異なる立場や価値観をもつ者同士が対等な立場で互いの意見や感情を共有し，相互理解や新たな洞察を生み出す深いコミュニケーションである。単なる日常的な会話や議論とは異なり，目的は「相互理解」「関係性の構築」

◎対話をする時のポイント
1　対等・・・異なる立場や価値観，年齢や経験に左右されない対等な立場
2　受容と傾聴・・・批判はしない。お互いそれまでに経験したことや価値観は違って当たり前。相手を理解しようとする。
3　自己の変容・・・自分の考えが正しいとは限らないことを前提とし，新たな気付きによって自分自身が変わる可能性がある。
4　目を見る　体を向ける　心をこめることで相手に安心感を与える。
5　相手を尊重する・・・否定や批判をしない。言いやすい雰囲気を作る。互いのちがいを理解し合う。

参考・・本田季伸　プライドワークス株式会社代表取締役社長

学年ルーティーンの例（5月１４日（木）研修予定）

No1	強　み	弱　み
○年生 ４～５月	◎基礎学力 ・単純な繰り返しには取り組むことができる。 ・与えられたことには最後まで取り組むことができる。 ・短時間なら集中できる。 ・漢字は書けるようになってきた。 ・基礎的な計算はできることが多い。 ◎学習規律 ・時間を守ってスタートできる。 ・忘れ物はない。 ◎人間関係　様子 ・仲間と協力することができる。 ・素直 ・穏やかな児童が多い。	◎基礎学力 ・四則計算ができない子がいる。 ・分からない時に教えてが言えず，黙ったまま時が過ぎてしまう子がいる。 ・漢字の細かい部分の間違いが多い。 ・すべての物事に対して丁寧さに欠ける。 ・語彙力が足りない。 ◎学習規律 ・途中で離席する児童がいる。 ・机上がぐちゃぐちゃ。 ・話を聞かない。 ◎人間関係　様子 ・横のつながりが薄く，お互いに助け合わない場面が見られる。 ・自分ができることを鼻にかける子がいる。
	いつ	何をするか
○年生	国語の授業の始め	漢字音読
	国語の授業　毎月　月の始め	辞書引きタイム
	算数の授業の始め	計算音読（九九）　９マス計算
	授業の始め　中盤	机上を整える時間をとる。 必要なものだけ出し，後はしまわせる。